

ふれあい つながり かわら版

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120



H30 小中一貫教育推
進担当者会より
共通の「子供のために」
に話合う小中教職員

大切にしたいこと ファーストステージの成果



「Withコロナ」の段階の 小中一貫教育について

新型コロナウイルス感染症の影響は想像以上に大きく、各学校では、現在、子供の「学びの保障」と「心のケア」を第一に最善を尽くしており、計画通りに小中一貫教育を推進できないことが予想されます。今回のかかわら版では、新型コロナウイルス感染症が収束していない段階での小中一貫教育の方向性を示したいと思えます。

優先すべきこと 各学校における 「学びの保障」と「心のケア」

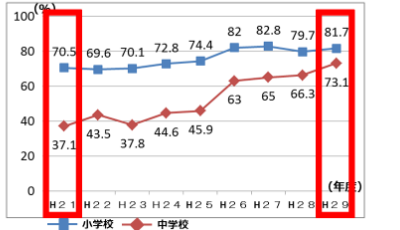
初めに明確なおきたいことは、各学校で子供の「学びの保障」と「心のケア」に最善を尽くすことを優先して欲しいということです。

既に、各学校においては、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、感染症対策を徹底した上で、「学びの保障」に取り組んでいます。「心のケア」についても子供の心の健康問題に適切に対応するだけでなく、学校教育ならではの学びを重視して、子供に活躍の場を与えようとする動きが小学校でも中学校でも広がっています。

このような状況の中、どうして小中一貫教育が必要なのでしょう。本市では、導入から平成30年度までの10年間をファーストステージと捉えています。左下のグラフは「授業で話し合う活動をよく行っている」と思う児童生徒の割合を表しています。中学校において小中一貫教育を導入した平成21年度から29年度の間は36ポイント上昇し、授業改善が進んだことは明確です。ここでもう一つ注目したいことは、始めは差があった小中学校の意識が年々揃ってきた点です。本市の小中一貫教育ファーストステージにおける最大の成果は「教職員が顔見知りになり、つながった」ことです。

小中一貫教育の成果は見えにくく、上昇したポイントの内、何ポイントが小中一貫教育の成果か答えることはできません。しかし、今まで積み上げていた小中教職員のつながりが失われないように、コロナ禍においても小中一貫教育の火を消すわけにはいきません。

普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う児童生徒の割合



教える側の意識のつながり

今年度に取り組むこと 各学校における「見つけ直し」

今年度は、来年度以降を見据えて、これまでの「目指す子供像」や、その実現のための取組を各学校で見つめ直す一年であるべきと考えます。

「見直し」ではなく「見つけ直し」という言葉を選んだのは、「見直し」は変化を前提とするのに対し、「見つけ直し」は、より建設的であると考えたからです。ブロックの取組を、その意義までしっかりと見つめ直した結果、変化することもあれば、枠組みを変えてそのままということもありえます。

小中一貫教育推進係においてもこれまでの取組を見つめ直し、整理しました。

取組の整理(令和2年度)

- 1 小中一貫教育推進計画書のHP掲載を休止
- 2 小中一貫教育推進期間の実施を休止
- 3 年度末にかけて各ブロックで推進委員会を実施
- 4 令和元年度小中一貫教育実践報告集の作成
- 5 ブランドカリキュラム完成時期の延長

※詳細は、7月15日付で通知済

3は、前述の小中教職員のつながりの維持を目的とし、各学校で見つめ直す視点を共有する機会になればと思っています。また、各ブロックの困り感などの情報を得て、現況でもできる小中一貫教育について発信するため、その場に指導主事も参加させていただく予定です。様々な制限があるとは思いますが、各学校での「学びの保障」と「心のケア」を優先した上で、これからも小中一貫教育を大切にしていくべきです。

今後のかわら版では、『今できる小中一貫教育』をテーマに、推進委員会から得た情報なども交え、具体的な方法等についてお伝えする予定です。